

時に口にしたスイカ、メロンの味がたまらなく懐かしく思い出される。

抑留中の作業と出来事

岐阜県 長江幸平

主として炭坑の石炭掘りであり、ロシア人の囚人と共同作業をしました。度々落盤事故があり、多勢の死者が出ました。

また、マラリアが蔓延し、多くの病人が出ました。それがその後どうしたのか一切我々には教えてくれませんでした。

発電所が近くにあったのを覚えています。

非常に雨の少ない土地で、夜、南京虫に悩まされ、外で寝たこともあります。

満天の星を眺めながら遠い故郷を偲んだものです。ある時、仲間のツルハシが足に当たり右足を骨折したことがあります。幸いにも九州医大の外科の先生

の治療を受けることができ、助かりました。

一度、現地と先生の所へ訪ねてみたいと思っておりますが、今のところその機会がなく残念でなりません。

私のシベリア抑留

岐阜県 河合 猛

岐阜県土岐市駄知町生。

昭和十一（一九三六）年、瑞浪尋常高等小学校卒業。

昭和十八年九月、満州遼陽飛行場大隊入隊。

昭和二十年、終戦とともにシベリアに抑留され、ソビエト連邦アングレンにて炭坑等の作業に従事。

昭和二十三年二月、帰国する。

今、思い出してもゾットするような生き地獄を味わった。幸いにも命あって日本へ帰れたのは幸運だったと感謝している。